

調査報告書

- 1 とき：2012年6月4日～5日
- 2 行先：名古屋市民おんたけ休暇村と木曽町小水力発電事業
- 3 参加者：わしの恵子、山口清明、岡田ゆき子、さはしあこ議員
政務調査補助員（浜田、柘植、尾関）
- 4 主な内容
 - ・財団法人名古屋市民休暇村管理公社から施設の現状と課題を聴取しロッジやキャンプ場などを現地調査し、今後の取り組みなどを聴取
 - ・王滝村から見た休暇村（王滝村議から意見聴取）
 - ・王滝村からの意見・要望（王滝村長と懇談）
 - ・木曽町役場 小水力発電の取り組み対応：おんたけ休暇村：坪内英二理事長（市のOB）、斉藤事務長、大竹総務課長（市の派遣職員）、神谷事業課長、施設主幹、奥田総務係長
王滝村：瀬戸普王滝村長、立花裕美子村議、栗空敏之企画財政課長
木曽町：中村保広議会事務局長、星野亮二企画財政課課長補佐

《おんたけ休暇村》

【休暇村の概要】自然を保護しながら、雄大な自然環境の中で、市民が快適で健全なレクリエーションを行うことができる場を提供する目的で名古屋市が設置。財団法人名古屋市民休暇村公社は、設置目的を具体的に実現するため、名古屋市の全額出資で設立。

昭和48年の開村以来、都会から離れ、豊かな自然に触れ、心身ともリフレッシュしたいというニーズは、基本的には変わっておらず、むしろ、



おんたけ休暇村と御岳。右がスキー場



ロッジの前にある展望台と中央アルプスの山々

自然環境に対する関心の高まりや自然との触れ合いによる健康回復など、ニーズ自体は高まっており、自然回帰の傾向は、今後ますます高まると予想されているが、セントラル・ロッジをはじめ、休暇村内の施設は、開村以来38年が経過し、大規模改修が実施されず老朽化、市民の日常生活環境とは大きく乖離。この間、消費スタイルの著しい変化や少子高齢化の進行といった社会経済情勢が変化し、公益法人制度改革などがすすめられている。

長野県内の年間観光地利用者の推移(千人)

		平成6年	平成10年	平成21年
長野県全体		104,319	100,275	91,741
王滝村	御岳山	81	65	54
	御岳高原	877	583	214
	王滝川溪谷	22	22	21
	計	980	670	289

長野県内のスキー場利用者の推移(万人)

	平成4年	平成10年	平成21年
長野県全体	2,120	1,383	718
おんたけ2240	66	33	5

休暇村の宿泊利用者及び市税投入額の推移

	宿泊者数(人)			事業費 (千円)	市税投入額 (千円)	ロッジ客単価
	ロッジ	キャンプ場	計			
4年度	37,073	9,679	46,752	619,590	292,872	約7,700円
10年度	26,045	9,645	35,690	624,684	359,323	8,500円
21年度	18,312	6,886	25,198	518,895	287,811	8,500円

セントラル・ロッジのシーズン毎の宿泊者数比較

	春(4~6月)	夏(7~8月)	秋(9~11月)	冬(12~3月)	合計
平成4年度	5,115	8,636	4,756	18,566	37,073
平成21年度	3,315	5,242	3,903	5,852	18,312
減少数	△1,800	△3,394	△853	△12,714	△18,761
増減率 1-21/4	△35.2%	△39.3%	△17.9%	△68.5%	△50.6%
減少数構成割合	9.60%	18.10%	4.50%	67.80%	100%

公社職員数の推移

	平成4年	平成10年	平成21年	平成22年
正規職員	39	37	18	15
嘱託職員等			22	20
労働者派遣				6
合計	39	37	40	41

公社が行った現状分析

	強み	弱点
外部的要因	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自然環境保護に対する関心の高まり ◇ エコツーリズムなどニューツーリズム市場の拡大 ◇ 登山、トレッキング、ウォーキングなどに対するニーズの高まり ◇ 自然体験に対する健康増進効果に対する期待やニーズの高まり ◇ 子供の成長期における自然体験の重要性の認識の広がり ◇ 大学生活におけるボランティア活動の社会的評価の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 規制緩和の影響(公共分野への民間企業の参入) ◇ 家族レジャーの多様化 ◇ スキー人口の減少(おんたけ 2240 スキー場の利用者の大幅な減少) ◇ 王滝村の観光魅力の PR 不足、回遊性のなさ ◇ 低価格の宿泊料で、集客を図る宿泊施設の増加 ◇ 宿泊施設から自然体験事業主体への転換方針が名古屋市内部で不徹底 ◇ 大学と小中学校の夏休み期間のズレ
内部的要因	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 木曾川上流域に立地しており、水源の森をはじめ自然環境が豊か ◇ 標高 1,350m~1,450m の高地に立地 ◇ 多種多様な体験事業を実施 ◇ 他にない規模と質を誇る「おんたけこども村キャンプ事業」を 30 年以上主催 ◇ 体験事業参加者の満足度が高く、リピーターが多い ◇ 体験事業を支える知識や経験豊かな職員が存在 ◇ 職員は、横断的に臨機応変に業務に従事 ◇ 体験事業を支えるボランティアスタッフ組織の存在 ◇ 地元との連携・協力体制 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 名古屋から遠く、来村に時間と費用が必要 ◇ 台風や大雨、大雪、又は雪不足など自然環境の影響を受けやすい ◇ 自然の動物被害(熊、猪、兎など) ◇ 開村以来 38 年を経過した施設全体の老朽化 ◇ 洗面所やトイレが共同の時代ニーズに合わない宿泊室で、利用者の苦情が多い ◇ 敷地内の遊歩道に回遊性がなく、また勾配が急なところが多い ◇ 長年の正規職員の退職不補充のため、技能や能力の高い職員が不足しており、平均年齢も高い ◇ 職員の仕事内容と処遇がアンバランス ◇ マーケティング機能が弱く、休暇村や体験事業に関する市民の認知度が低い

【主な議論】

《おんたけ休暇村》

- ・ トイレはほとんど共用で、若干の改修がされて、1カ所に1つの洋式トイレにはなっているが狭くて使いにくい。



挨拶するわしの団長。公社からは理事長、事務長などが参加

- ・ 2 部屋を 1 室に改造してトイレ付の部屋を作っているが、今の時代、この程度の広さはふつう。6 畳に 3 人、8 畳に 4~5 人という基準では、192 人の定数に対する利用率自体がどんどん下がっていく。



開設当時のボイラーをいまだに使っています。



2 部屋を合体して、近代的にバストイレ付のゆったりした部屋に改造。



大浴場の水漏れで 1 か月の休館になったが、昨年末に改修しオープン。



ロッジの柱には長野県西部地震の爪痕がまだ残っています。亀裂も多くあります。壁紙の剥離も随所に。

- ・ 理事長としては、改修した玄関から右側だけを残して、駐車場側などに改築、古い部分を壊したほうが、修繕を繰り返すよりベストだと考えている様子。
- ・ 浴室の水漏れのため昨年 11 月に 1 か月休館。現在は通常営業。温泉ではなく、露天風呂でもない。ただ大きいだけ。
- ・ 理事長は「自然はほかの物には変えがたい」として、その拠点としての休暇村を残してほしいという立場で頑張っているという。
- ・ 今年度調査費が組まれたが、何を調査するのか。利用実態についてはすで



かつては喫茶室・カラオケ部屋も、そば打ち道場に。

に調査済みで、対応策も出している。老朽化でニーズに合わない部分を早急に改修する調査ならわかるが意味のない調査だ。

- ・ キャンプ場をはじめ、休暇村内の広大な自然を管理するのは大変で、理事長自らトラクターや草刈り機で下草の伐採や間伐を行



キャンプ場の下草刈りも大変。ほっておくとクマが寄ってくるとか。

っている。職員は 15 名、臨時職員など含め 40 人くらい。村内職員は 10~20 人。ボイラーの管理からキャビンの修繕、伐採など自ら行っている。熊笹を放置して伸び放題にしたり、実のなる木を放置するとクマが寄ってくる。2 年前にロッジの庭にクマが入り込み、調査した日もクマの出没情報が寄せられていた。伐採によって人的被害を防いでいる。

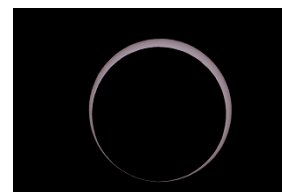


高年大学のボランティアが整備している森。

- ・ ボイラーは開設以来の古い施設を修繕しながら維持している。ペレット活用型への転換など改善する機会になっている。
- ・ それでも広大な自然のため、小牧市の職員研修などで間伐体験などを行ってもらったり、高年大学のボランティアの方が花や森の整備を手伝っている。
- ・ 百草の森を国や県の補助を利用して整備して、伐採などを行っているが、ほんの一部にしか適用できず、さらなる拡大するには課題がある。
- ・ 事務長は山岳ガイドや温泉療養士のいろんな資格を持っている。
- ・ 天文館は 2 億 3 千万円かかった。望遠鏡そのものは 6000 万円程度だが、観測者の動きで望遠鏡が振動しないよう、観測の場と望遠鏡の土台を分離する必要があり高額な建設費となっている。毎日 7 時半から観測会を行っている。(5 月 21 日の金環食もこのとおり)



天文館の 600 ミリ反射望遠鏡。毎晩観測会を開催。



- ・天文館やキャンプは教育委員会がやるような事業の側面がある。夏場は科学館からボランティアを派遣してもらっている。プラネタリウムで見た星を御岳で実物を見る感動を、というが、望遠鏡は特異性なし。
- ・いろんな企画ツアーを組んで泊りがけのゆったりした企画を多数打ち上げて集客化を図っている。名古屋発着のんびりプラン 上高地コース・乗鞍高原コース。休暇村集合ゆったりプラン 健康ウォーキング、山菜採り、フルーツ狩りなどで、自然体験プラン 森の神秘に触れたり、心と体をリフレッシュするプラン、つるかごと豆腐作りやふき味噌作りときのこの菌打ち、木曾路ぶらりスケッチなどの地域の食材と文化を体験するプラン、ノルディック・ワーク「美ヶ原高原」、ウォーキング・トレッキング、周辺の山の自然体験登山・トレッキングなどで、自然を五感で味わうプラン、子どもたちの夢を育て、親子で楽しむ自然体験の、おんたけこども村キャンプなどを行っている。
- ・キャンプ場のキャビンは、寒冷地の特性を知らない設計者のためか、冬季の霜柱で床が相当にいたんでいる。外壁はキツツキがいたるところに穴をあけて、ふさいでもふさいでも次々開けられる。放置するとその穴にハチが巣を作るので放置できない。
- ・キャビンの屋根も近代的なコロニアルをはっているようで、寒さではがれていく。向かいのように木で作ったほうがいいと、地元では言っている。設計は寒冷地やキャンプに詳しい人がやるべき。キャンプ場のテント地域の炊事場も屋根を建替えたが、デザイン重視で外側から調理などをしていると屋根の雨水が全部落ちてくる構造。



キャビンも雨漏りの改修やトイレの近代化の必要がある。最近の子は和式トイレが使えない。



修繕した大型キャビン。



キャビンの壁にはキツツキによってあけられた穴が無数に。塞いでもすぐ開く。

- ・ キャンプ場などの木の部材は専任の大工さんがいるのですべて自前でやっている。
- ・ キャンプカウンセラー：オープン前から名古屋市およびその周辺の四年制大学1・2年生を対象に募集され47年度にカウンセラー1期生が、開村した48年度に2期生が誕生し、名古屋御岳キャンプカウンセラーの会（NOCC）が設立された。キャンプ場の施設面も充実、公社のPRも巧を奏し、開村5年目には、キャンパー数も2倍近くの伸びをみせた。昭和52年から自主企画の「おんたけこども村」が開催された。カウンセラーとしての実力、真価が問われるキャンプであった。昭和54年から55年にかけて、全て1テント1カウンセラーだったものを、3テント1カウンセラーへと移行していこうとする公社事務局との間でキャンプ場運営に関する認識の違いが生じ、折り合いがつかず、どうしても来シーズンも御岳キャンプ場で活動したいと言うメンバーによって、再度話し合いの場がもたれ、新しく名古屋市民休暇村キャンプカウンセラーの会が設立されている。



炭焼き釜も設置して多様な活動要望に応える



こもれびの湯の炭酸泉を試飲。近くには足湯も。

- ・ こもれびの湯が整備されている。鉄分を多く含む冷たい炭酸泉をわかすかけ流しの湯。オーバーフロー下湯を使って河原近辺に足湯もあるが、当日は切れていた。人里離れた奥地にある小さな温泉がポツンとある、という感じ。バスでの入場も困難なところで、活用に課題あり。周辺には水芭蕉が茂っていた。
- ・ こもれびの湯のそばに休憩所があり、木材チップのストーブがあり、奥には水車を利用したミニ発電装置（動いてはいなかった）があった。



ミニ水車による発電装置（上と右）



休憩所の木材チップストーブ

- ・ 百草の森事業を国・長野県の絆の森整備事業の補助金（だいたい年 500 万円の事業）を活用して 5 年間で整備している。補助は今年度で終わるが、ほっておけないので管理する手間が生じるので大変という。
- ・ 市民の森づくりを従来から行ってきており、地元や名古屋市民の協力で進めている。こうした活動で炭焼き釜を設置したり、植樹をしている。
- ・ 鳥獣館も設置されていたが、この施設には不要ではないか。
- ・ 国保の助成を利用した人は、23 年度 1813 人でした。



時代錯誤の鳥獣館

《王滝村村長や議員との懇談》

- ・ 王滝村は人口が 903 人、職員は 48 名。かつては営林署の関係で 500 人以上、家族含め 1200 人は林業に携わっていたが、今は 10 人以下。スキー場も 1 昨年に北海道の指定管理会社が撤退、村としては死活問題として、1 年は規模を縮小し直営でがんばったが、夏場の営業はあきらめた。今年は兵庫県の子会社に指定。今細かいところを詰めている。
- ・ 御岳スキー場は 1961 年の村営スキー場から 50 年の歴史がありながら、2005 年に加森観光に 10 年契約で指定管理。2007 年からおんたけ 2240 に



名王滝村村長と懇談
称 (6 月 5 日午前 8 時 30 分～)



王滝村議と懇談
(6 月 4 日午後 5 時～)

変更。2011 年、加森観光が大震災で他の施設がダメージを受けたために撤退し、1 年は村直営で、今年からは兵庫のマックアースが 5 年契約で受託。93 年が 67 万人の来場者で、昨季が 5 万 1 千人。いずれの会社も「再生なら任せて」といわれる会社。どうなることでしょうか。

- ・ 水源問題が話題になり、ボイラーは硬水扱いとなっていることを聞いた村長が「硬水なら売れる」といったが、休暇村の水は飲用としては軟水、ボイラーとしては硬水の範疇に入るという結論になった。硬度の問題か。
- ・ 議員になる前に休暇村で働いていたこともあり、キャンプカウンセラーで

も活動していたという村議の意見では、お客さんに対する姿勢がなっていない、売店にお角がいても知らん顔、またトップが短期間で変わりそのたびにやり方が変わるのでやっていけない、という感じとか。

- ・ スキー場で 22 億円の負債が発生し、そのふさいで合併ができなかった。財政再建で給与 25%カット、職員も 75 人から 5 人にして毎年 3 億円ずつ償還している。その中でも水道料金は据え置き、保育料の無料化や給食費の無料化、低廉な村営住宅の提供などで若年層の定着に努力しているが、今年はいよいよ新生児が 1 人ということになりそう。
- ・ 村の大部分が森林でそのほとんどは国有林。営林署の職員は 8 名くらいで、とても管理しきれない。いい木はへり集材になっている。
- ・ 偶然、名古屋の知り合いが宿泊し、山菜取りをやってきたというお話で盛り上がりました。
(右の写真)



- ・ 以下、送迎バスと朝の見送り。休暇村での昼食（イワナのから揚げ定食 850 円）と木曾町でのそば（1 森 1050 円）



木曾福島駅と送迎バス



朝のお見送り



休暇村の昼食



木曾町のそば

《木曾町》

- ・ 木曾町の概要について説明を受け、小水力発電への取り組み状況について説明を受けた。

- 人口は 12625 人。面積 476 平方キロメートル。職員 198 名、議員 18 名。
- 平成 23 年度に木曾町小水力等活用検討委員会を立ち上げ、「木曾町小水力エネルギービジョン」を 24 年 3 月に策定（76 p）。委員は、池田俊彦信州大学工学部教授（委員長）をはじめ、飯尾昭一郎同大准教授、木曾建設事務所維持管理課長、各地区 2 名の公募委員など 15 名で構成。地球温暖化、原発問題などエネルギーに関する話題が議論されるなか、再生可能エネルギーとして小水力発電が注目され、平成 16 年に旧木曾福島町で新エネルギービジョンが作成されていたが、今回、木曾町全体に対して、小水力発電の発電可能量を調査し、さらに、実際の利用可能箇所について検討した。その中で、経済性を考慮して 6 つの重点プロジェクト地区を選定し、今後の木曾町における小水力発電推進への道筋をたてた。



木曾町であいさつするわしの議員



駅と役場の間にある万群沢の急流。
ミニ水力発電の候補の一つ



上の段の水路と水車・LED照明

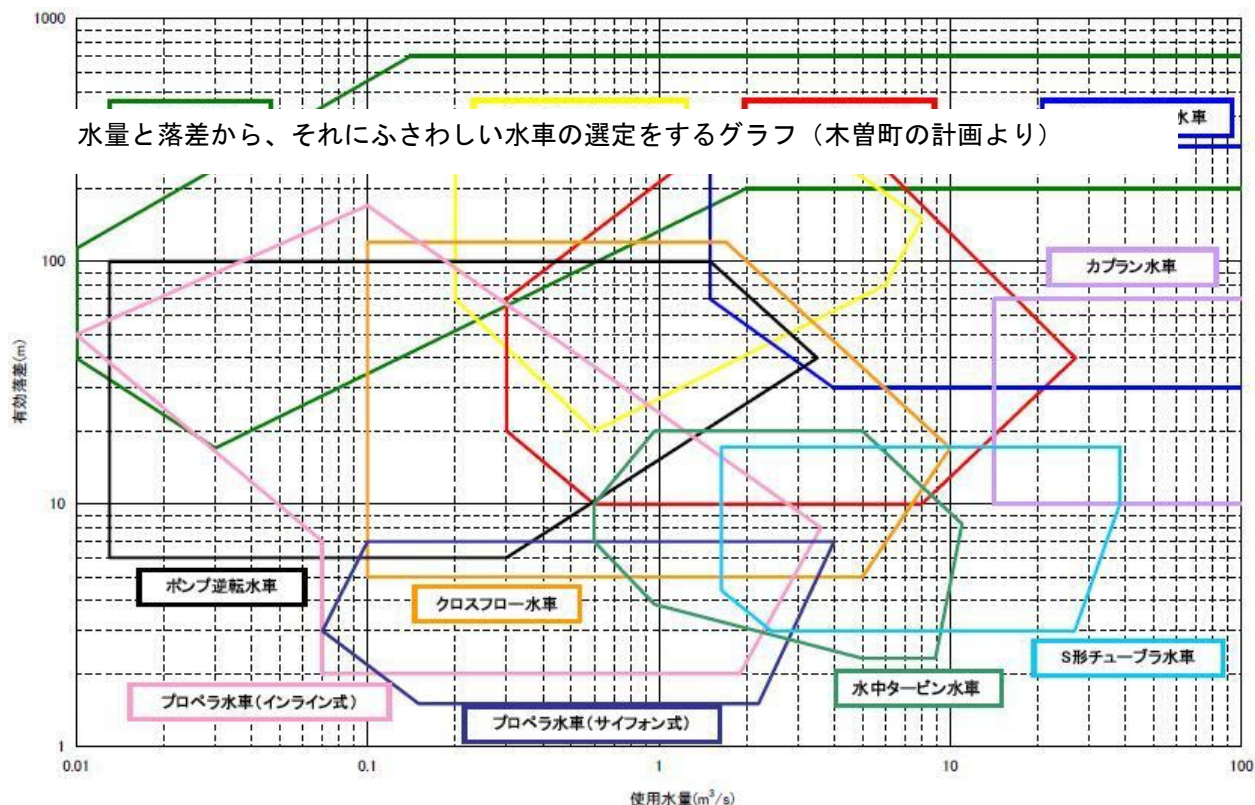


木曾川

水小水力発電の可能性を調査した結果（木曾町の計画より）

表 4-6 町内の小水力発電利用可能量（その1）

通し 番号	種別	発電量 (kWh)	初期投資額 (百万円)	年経費 (千円/年)	発電原価 (円/kWh)	評価				備考(名称)
						取引量	経済性	電力需要	防災	
1	滝型工	7.32	57	1,568	48.92	×	△	×	×	
2	滝型工	8.25	50	1,575	60.07	×	△	×	×	
3	滝型工	8.51	50	1,575	59.08	×	△	×	×	
4	滝型工	8.51	50	1,575	58.98	×	△	×	×	
5	滝型工	2.75	50	825	69.00	×	△	×	×	
6	滝型工	0.97	10	275	64.43	×	△	×	×	
7	滝型工	1.74	15	558	47.02	×	△	×	×	
8	滝型工	0.55	5	158	59.55	×	△	×	×	
9	滝型工	0.94	8	220	55.44	×	△	×	×	
10	滝型工	3.44	27	745	49.29	×	△	×	×	
11	滝型工	1.35	12	550	61.45	×	△	×	×	
12	滝型工	2.90	21	578	45.54	×	△	×	×	
13	滝型工	2.47	20	580	50.77	×	△	×	×	
14	滝型工	1.66	12	550	45.59	×	△	×	×	
15	滝型工	3.19	26	715	51.16	×	△	×	×	
16	滝型工	9.86	68	1,870	45.29	×	△	×	×	
17	滝型工	1.86	15	415	59.71	×	△	×	×	
18	滝型工	11.80	85	2,285	44.17	×	△	×	×	
19	滝型工	4.81	48	1,520	62.60	×	△	×	×	
20	滝型工	5.41	48	1,238	52.22	×	△	×	×	
21	滝型工	3.75	59	1,072	65.66	×	△	×	×	
22	滝型工	1.84	14	585	45.53	×	△	×	×	
23	滝型工	2.97	20	580	58.38	×	△	×	×	
24	滝型工	1.27	10	275	45.04	×	△	×	×	
25	滝型工	0.15	40	1,100	1,708.58	×	×	△	△	
26	滝型工	0.22	5	158	127.87	×	×	△	△	
27	滝型工	0.69	8	220	66.27	×	△	△	△	
28	滝型工	0.59	4	110	58.51	×	△	×	×	
29	滝型工	0.69	6	165	49.76	×	△	×	×	
30	滝型工	2.87	25	652	45.68	×	△	×	×	
31	滝型工	0.87	10	275	65.40	×	△	×	×	
32	滝型工	0.46	5	158	61.96	×	△	×	×	
33	滝型工	0.50	4	110	48.45	×	△	×	×	
34	滝型工	0.55	7	195	72.49	×	△	×	×	
35	滝型工	0.98	10	275	58.12	×	△	×	×	
36	滝型工	6.40	54	1,485	48.19	×	△	×	×	
37	新防えん場	9.85	82	1,450	50.15	×	△	×	×	キビ尾
38	新防えん場	4.52	22	605	27.78	×	△	×	×	門助
39	新防えん場	64.84	168	4,620	14.79	○	◎	○	×	こがら
40	新防えん場	108.51	200	5,500	10.52	◎	◎	○	○	正良
41	新防えん場	119.76	245	6,735	11.68	◎	◎	○	×	本原
42	新防えん場	4.08	20	550	27.98	×	△	×	×	柴屋沢
43	新防えん場	17.84	75	2,065	25.99	△	△	×	×	正良
44	新防えん場	21.64	80	2,200	21.10	○	△	△	×	野上
45	新防えん場	7.18	40	1,100	31.81	×	△	×	×	宮の嶺
46	新防えん場	6.15	22	605	20.40	×	△	△	×	徳音寺
47	新防えん場	4.39	20	580	26.00	×	△	×	×	神谷
48	新防えん場	4.79	25	655	27.41	×	△	×	×	直良
49	新防えん場	2.42	11	502	25.90	×	△	○	○	権現沢
50	新防えん場	4.28	20	580	26.64	×	△	△	△	足野
51	新防えん場	0.19	2	55	59.97	×	△	×	×	万戸瀬沢
52	新防えん場	1.29	8	220	35.42	×	△	×	×	田の瀬
53	新防えん場	10.89	55	1,515	28.82	×	△	△	×	道官1
54	新防えん場	8.64	82	1,450	34.54	×	△	△	×	道官2
55	新防えん場	4.21	20	580	27.10	×	△	×	×	うるい沢
56	新防えん場	1.15	5	158	24.75	×	△	×	×	徳澤沢
57	新防えん場	4.19	20	580	27.24	×	△	×	×	お羅河
58	新防えん場	45.60	140	3,850	17.82	○	○	○	△	湯川(兼本)
59	新防えん場	51.55	152	4,180	16.85	○	◎	×	×	白川第1
60	新防えん場	60.32	165	4,485	15.42	○	◎	×	△	原野野
61	新防えん場	100.16	255	6,405	13.28	◎	◎	×	×	白川第2
62	上水道	1.01	9	248	50.66	×	△	○	○	栗沢川浄水場
63	上水道	0.27	5	158	105.46	×	×	○	○	関山配水池
64	下水道	0.89	5	158	52.04	×	△	○	○	木曾福島浄化センター
65	下水道	0.02	5	158	1,708.20	×	×	○	○	木曾浄化センター
66	下水道	0.20	5	158	141.98	×	×	○	○	日義浄化センター
67	農業用水	14.18	95	2,615	38.25	×	△	◎	◎	木曾福島駅付近
68	農業用水	1.28	50	1,575	222.82	×	×	○	○	日義わんぱく村
69	農業用水	0.60	5	158	47.46	×	△	△	×	三番茶溜
70	農業用水	4.87	5	158	5.86	×	◎	△	×	福島川合
71	農業用水	0.07	5	158	494.46	-	×	△	○	福島八郎
72	農業用水	0.58	5	158	74.46	×	△	◎	◎	福島上ノ地
73	農業用水	0.14	5	158	202.25	×	×	△	○	福島八郎橋下
74	農業用水	0.21	5	158	154.82	×	×	△	○	福島八郎加藤組
75	河川	0.09	5	158	525.57	×	×	△	×	関田西野堤ノ丘
76	農業用水	0.07	5	158	494.46	×	×	△	×	関田基原自浄下ノ原
77	農業用水	0.05	5	158	577.80	×	×	△	×	関田基原末川角堰
78	河川	1.91	5	158	14.98	×	◎	△	×	日義野上
79	農業用水	0.08	5	158	597.69	×	×	○	△	日義町民体育館後
80	農業用水	1.49	5	158	19.21	×	○	○	△	日義正良原地区
81	農業用水	2.41	5	158	11.86	×	◎	○	△	福島大原
82	工業用水	0.60	10	275	25.17	×	△	△	△	ミタロ付田工業用水
83	農業用水	0.79	5	158	36.08	×	△	△	△	日義本陣



- ・ 小水力発電はまだこれからという段階。計画はあるものの、事業費が行1 基数百万から数億円とかかることや、水量が一定でないこと、大雨になった時の施設の保全などに問題がある。
- ・ 水利権はあまり問題なさそう。ダムのように地下へもぐらせるわけでもなく、了解さえ得られればできる。
- ・ 長野県では各地で実施され、大町市では



木曾川沿いの崖屋

下水処理場に電気を回して8年で回収したという事例も紹介された。電気保安協会のOBを使うなどして保守点検を安く上げる工夫もしている。

- ・ 信州大の池田教授が熱心にやっている。事例もたくさんある。
- ・ 地産地消に適した発電。
- ・ 木曾町の公共交通＝生活交通路線バスは、



木曾町の生活交通バス

幹線バスが1回200円。巡回バスや乗り合いタクシーは1回100円。乗り継ぎ割引もある。開田高原に行くのに以前は1500円くらいだったのが200円になった。